

来週の「売り物」記事はこれ



2012年6月8日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

話題騒然！ 超大型読み物「S（ストーリー）」

戦後ドイツ負の遺産…

ナチスの「財宝伝説」 朝刊 6月10日（日）



世界中を「死と絶望の恐怖」に陥れた第2次世界大戦が終わってすでに70年近くが経過します。おびたしい命が失われた惨劇の数々は、すでに「歴史の物語」として語られています。けれども、欧州——とりわけヒトラー＝写真＝を生み出したドイツには、いまだ一つの「妖怪」がさまよっているといえます。ナチスが占領地から収奪した金塊、美術品がどこかに埋まっている、という「伝説」です。なかでも、ナチス・ドイツが旧ソ連から持ち出した「琥珀（こはく）の間」は、数百億円相当という価値もさることながら、その存在を信じる人が多いこともあって、ナチスの財宝伝説を代表するものです。日光の「徳川埋蔵金伝説」になぞる向きもあるようですが、ドイツの場合、その存在を確信する連邦議員もいるほどです。本誌特派員が財宝のありかを求めて、ドイツ国内はもとより、オーストリアの人里離れた湖まで探訪しました。知られざる歴史秘話の「迷宮」にご案内します。



日曜朝は『S』で始まる——。ご期待ください。

クリケットに見る英国スポーツの格式 — 月刊ロンドン五輪6月号

12日（火）



ロンドン五輪（7月27日開幕）を前に、英国各地で近代スポーツの歴史をたどる特集「月刊ロンドン五輪」。今回は、英国の代表的スポーツ、クリケットを取り上げます。投げたボールをバットで打ち返すところなどは、野球に似ているといいますが、1試合に4～5日かけることもあるなど、ユニークな点も多いスポーツです。そこには、伝統と格式を重んじる英国の精神がのぞきます。12日の特集面で、現地ルポを紹介します。

てんかんを考える①②

くらしナビA面 12・13日（火・水）

京都・祇園で暴走事故を起こした男性は、てんかんの持病を抱えていました。てんかんを申告せず運転免許を取得した人に、罰則を設けるべきだという議論が起きていますが、患者団体は「差別を助長する」と反対しています。てんかん患者の実例も交えながら、2回にわたって課題を探ります。



静岡の「つけナポリタン」 くらしナビB面 12日(火)



全国のグルメ料理を訪ねる「ご当地<食>ウオーク」。今回は、静岡県富士市の「つけナポリタン」です。麺をトマトスープにくぐらせて食べるユニークな料理で、市内では40店ほどが独自の味を提供しています。チーズを絡めたり、魚介の具を載せたり、おにぎりとのセットでリゾートも楽しめます。

落書きできる壁 くらしナビB面 14日(木)

子どもが壁や床に落書きしてしまい、困っていませんか。部屋の壁一面をホワイトボードに改装し、子どもに思う存分、落書きさせている家庭を訪ねました。描いても拭き消すことができ、マグネットで写真なども飾りつけ、子ども部屋が楽しくなります。汚れにくい壁紙など、最新グッズも紹介します。



「やせた民族」「薄っぺらで薄情」…

暴言繰り返す石原慎太郎東京都知事 沈む太陽の季節

夕刊特集ワイド面 13日(水)



2020年夏期五輪招致で、競争相手のマドリード、イスタンブールに比べ東京都民の支持率は47%と低かった。で、石原都知事=写真=が言ったのは、「一体、日本人は何を実現したら胸がときめくのか。ちまちました自分の我欲の充実で、非常にやせた民族になった」。これまで年配女性や外国人に向けた毒舌はついに都民全体になった格好。盟友、佐々淳行氏によると、老境ゆえの変化のよう。が、一方で、3・11後も五輪招致を夢に掲げる石原都知事には変わらない面も見える。

ロンドン五輪企画「被災地を背負って」

2012年ロンドンオリンピックの開幕(7月27日)が迫り、日本の出場競技、出場選手が続々と決まっている。活躍が期待されるアスリートの中には、昨年発生した東日本大震災の被災地・東北と深いゆかりを持つ選手たちもいる。津波にのまれたふるさとへの思い。一緒に明日を夢見た仲間たちとの別れ。「自分は今、競技をされていていいのか」との苦悩を抱えた選手もいました。さまざまな思いを胸に最後の調整に励む選手たちの姿を紹介します。

